

宮田 均

(無所属)

道路特定財源の使い方は

**問** 道路特定財源の無駄遣い、ミュージカル上演、職員旅行費、CD制作、カラオケセット、健康器具購入、道路事業費の発注の9割が入札なしの随意契約で発注先への国土交通省OBの下りは1248人で工事費は2割程度割高であり省庁、OB、契約先との癒着の構図は排除すべきと考える。「山部川橋」「ふらの大橋」の架け替え等生活道路を優先に考え、地方分権、どんな田舎を富良野は目指すのか。市長のリーダーシップは重大。暫定税率の廃止、特定財源の一般財源化をし、地域に必要な財源を国民に分かりやすくする事が必要と考えるが。

**答** 本市は暫定税率分として平成17年度1億7千万円、18年度1億6千8百万円を受けている。道路維持管理等に充当。今後は国の動向を見極めたい。

**問** 富良野道路の今後の計画と

予算について。

**答** 今年度は区域全線の用地確保その他で事業費31億円を要求していると聞いている。



建設中の富良野道路(チーズ工房付近)

協会病院跡地の活性化は

**問** 協会病院跡地だけに集客する施設になるのでは。街中に集客する計画が分かりにくい。跡地は賃貸になるのか、無料なのか、有料なのか。議会・市民のチェックはどのようにとるのか。

**答** 協会病院跡地近郊空地、くにい跡地、駅前地区との三軸を滞留拠点として回遊性をもたらし計画である。庁議・中心市街地事業推進本部で決める。パブリックコメントなどの手続きにより合意形成に取り組む。

天日 公子

(民主クラブ)

富良野市環境都市宣言を

**問** 自然環境にめぐまれ、環境にやさしいまちづくりを進めてきた市として、環境都市宣言をし富良野をPRすることは、農村観光都市を進める上でも役に立つのではないか。

一方、市民はゴミの増大など、日常生活に起因する環境問題にも大変関心がある。この頃は、心ない人が不法投棄をしたり、固形燃料袋の中にはとんでもないものが入っている時もあるが、大方の人はゴミの14分別には一生懸命対応している。環境都市宣言をすることは、富良野市の更なるイメージアップと、富良野市民、事業者が生活の見直しのきっかけとし、元気が出るような応援旗となり、希望になるのではないか。

**答** 市民一人ひとりの環境意識の高揚や、事業所・団体などを含めた、全体の機運の高まりが重要であり、先進都市の調査を

進めてまいりたいと考えている。

後期高齢者医療制度の周知は

**問** 後期高齢者医療制度になり、今までと違う保険料と2年ごとの保険料の見直しの中、今まで受けられた健康診査や、予防接種などは、今後どのようなようになるのか。周知方法は。

**答** 健康診査は受けることができ費用は助成する。がん検診についての助成は他の保険者と同じく廃止する。65歳以上のインフルエンザ予防接種事業は継続していく。後期高齢者医療被保険者証の送付の際にパンフレットの送付。4月号広報にて周知の徹底を図る。



後期高齢者パンフレット